〔視点２〕内容や時間のまとまりを見通した単元（題材）のデザイン

１　主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

次の学びにつなげる「振り返り」

振り返りは、学習活動の意味を考えるなど、身に付いた資質・能力を自覚することに加え、児童自身が気付きや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるなど、主体的に学習に取り組ませる上で大切な活動です。

そのため、単元（題材）全体を通して、児童が学習を自分の問題として捉え、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習活動を児童自らが生み出していく場面を位置付けることが重要です。

【ＰＯＩＮＴ】
- 「主体的・対話的で深い学び」とは、学習指導要領に示された内容を、児童が「どのように学ぶか」について、具体の姿として示したものです。
- 児童の具体的な学びの姿を考えながら、単元（題材）のデザインを考えることが大切です。

「主体的な学び」の具体例

児童生徒が**問題の解決に向けて見通しをもつ**

□　児童生徒の姿
- ○　**学習の方法についての見通し**
  - ・どのような場面なのか
  - ・今までに似た問題はなかったか
  - ・これまでの解決方法は使えないか
- ○　**結果についての見通し**
  - ・○○を超えそうだ
  - ・○○と変化しそうだ
  - ・○○なイメージになりそうだ

□　授業者の視点
- ・既習事項を想起させる
- ・具体物を提示しイメージをもたせる
- ・日常生活と関連を図る
- など

児童生徒が**学習活動を振り返る**

□　児童生徒の姿
- ○　**次につなげる学習活動を自分自身が生み出していく**
  - ・できるようになったことは何か
  - ・友だちのいいなと思ったことは何か
  - ・次の授業でチャレンジしたいことは何か

□　授業者の視点
- ・ワークシートを工夫するなど、自分の成長を自覚させる
- ・活動の過程を画像や映像で記録させる
- など

２　対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。

学びの質を高める「対話」

対話の向かう先は、単元（題材）で育成を目指す資質・能力であることを踏まえ、対話に先立ち、自分なりの考えをもたせるような場面を工夫することが大切です。

【ＰＯＩＮＴ】
- 授業の目標のもと、意図をもって話合いの場面を設定するとともに、どのように話合いを進めるかなど、児童に明確に伝えることが大切です。

「対話的な学び」の具体例

児童生徒が**問題解決のために話し合う**

□　児童生徒の姿
- ○　**異なる多様な他者と対話をする**
  - ・自分の考えだけでは解決できないので、他者の考えを聞く
  - ・他者の考えを聞き、自分の考えを付け足す
  - ・他者との話合いを基に、自分の考えを整理する

□　授業者の視点
- ・自分なり考えをもたせる
- ・考えを引き出す発問をする
- ・考えを交流させる
- など

３　学びの深まりをつくりだすために児童が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。

知識・技能をつなぐ「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程において、教科等の固有の学びが実現されるよう、児童がどのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを踏まえ、単元（題材）をデザインすることが大切です。

【ＰＯＩＮＴ】
- 実際の指導場面における児童の学習の状況に応じ、指導計画の見直しを図る柔軟な姿勢をもつことが大切です。

「深い学び」の具体例

児童生徒が**「見方・考え方」を働かせながら問題解決する**

□　児童生徒の姿
- ○　**教科等固有の視点で対象を捉え思考する**
  - ・自分の学びを深めるために話し合ったり書いたりする
  - ・これまで学習過程をノート等を活用して振り返る
  - ・問題解決の過程を振り返り、よりよく問題解決する

□　授業者の視点
- ・自分の思いや考えと結び付けさせる
- ・習得した知識・技能を活用させる
- ・身に付けさせたい力を明確にする
- など